

FTCチェンジメーカー教育プログラムは、子ども・若者一人ひとりが社会問題を自分ゴトとして捉え、問題解決に向けたアクションを起こし、社会参画を通して学ぶ、当団体が開発した教育プログラムです。毎月学校現場での最新の教育・授業実施事例をお届けしています。

## 特集：学校でのアクション実施例：小学校編 VOL.2

### 担任の先生インタビュー『子どもも先生も楽しい総合の学習』

東京都世田谷区立烏山小学校 | 2020年4月～現在



#### 学校・先生情報 ※情報はインタビュー実施当時の情報です。

お名前：江口 綾（えぐち あや）先生  
ご所属：世田谷区立烏山小学校  
対象学年・教科：5年生 総合的な学習・国際理解

#### 【主な学習の流れ】

1学期：SDGsの各ゴールについての調べ学習

2学期：1学期のまとめ発表

自分たちにできることを考える・計画づくり・実行  
アクション振り返り・発表

☆FTCJスタッフによる授業：2回

#### インタビュー項目

- ・フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに授業依頼をしようと思った理由・きっかけ
- ・授業前後・内容についての感想
  - ▼依頼や導入前の相談から授業準備のやりとり
  - ▼授業内容
  - ▼授業後のフォローアップ
- ・子どもの様子・変化・学びなど
- ・難しかったこと、課題
- ・今後の取組を検討している他の学校・先生方へのメッセージ

#### フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに授業依頼をしようと思った理由・きっかけ

校長先生の紹介です。

元々、5年生の総合の授業では、国際理解をテーマにしていたのですが、基本的には他国のこと（文化、食べ物、伝統芸能）について調べて、発表するという形式のものでした。

「より探求型にするために適した団体があるから相談してみて」と校長先生に言われました。特に、具体的な内容の指示はなく、まずは連絡させていただきました。

#### 授業前後・内容についての感想

##### ▼依頼や導入前の相談から授業準備のやりとり

ファシリテーターの方と最初の打ち合わせをする前に、いただいたパンフレットやホームページを見ながら、授業計画の第一案を作成しました。しかし、FTCJさんが取り組まれている課題は、世界の児童労働や貧困、水などの保健の取り組みなど、子どもたちには程遠い存在のものに感じ、何をするか全くイメージできませんでした。

不安がある中での初回の打ち合わせでしたが、話してみるとだいぶ授業のイメージが湧いてきました。何よりいくつも事例を出していただいて、「あ、児童労働などの問題だけじゃなくていいんだ」と選択肢が広がりました。ファシリテーターの方の提案を聞きながら、「最初は調べて知る、次に課題を見つけて行動に移す」という年間の流れも決めることができました。

その後、初回の授業までの間はメールや電話でのやりとりをしました。授業内容・時間配分・必要なものなどは詳しく文面で連絡いただきました。正直丸投げさせてもらった感じです(笑)

どんな感じなんだろうと不安と期待で一回目の授業を待っていました。

#### ▼授業内容

1回目：調べ学習前の導入授業（テーマ：世界の諸問題やSDGsについて知る）

授業の中では、ワークを交えた学習はもちろん、実際にいる子どもの事例やファシリテーターの方の海外での実体験を交えて伝えてくださったことがよかったです。実際に様々な現場を経験した人から話を聞くことと、先生が調べたことを伝えるのでは、子どもたちへの伝わり方が違うなと思いました。生きた声を聞かせていただけてよかったです。



2ページ目へ続く➡

# 特集：学校でのアクション実施例：小学校編 VOL.2

## 担任の先生のインタビュー『子どもも先生も楽しい総合の学習』つづき

### ▼授業内容 つづき

2回目：調べ学習後の授業（テーマ：自分にできることを見つけて、計画を立てる）

調べた社会問題に対して自分にできることを見つけたり、その計画を立てたりしましたが、そのワークシートのボリュームがちょうどよかったです。書き方のお手本があったこともよかったです。

アクションを考え行動に移していく過程の中では、子どもたちから出てくるアクションを聞くことが特に面白かったです。

社会問題と寄付についてのお知らせを書いた風船を飛ばしてみたり、区議会議員さんへお手紙書いてみたり、学校行事の時に募金を行って1万円近く集めたりと様々な活動がありました。

ただ、コロナ禍ということもあり、やはりできることに少し制限がかかってしまったことが残念でした。その中でも、子どもたちがやりたい！と思ったことをできる範囲でできたことはよかったです。

もちろん、すべてのグループが最初のアイデアをそのまま実行したわけではないです。

例えば、地域に子ども食堂がないことについて、最初は国会議員さんにお手紙を書くというアイデアのグループがありました。正直計画が大きすぎるかなと思い、私から「もう少し身近なところにしたらどうかな？」と提案したところ、「都議会にしよう。いや区議会にしよう。」と対象が変わっていきました。その結果、お手紙を書いた区議会議員さんは返事をくださるだけでなく、学校にまで来てくださいました。

アイデアの大枠は尊重しつつ、学校としてできる範囲や効果のある範囲を考えて子どもに提案することも大切かなと思います。

### ▼授業後のフォローアップ

ワークシートを送っていただいたり、アクションを実施した後の、まとめの発表を見にきていただいたりもしました。親や先生以外の大人に褒められることは子どもにとっても嬉しいことだと思います。

### 子どもの様子・変化・学びなど

子どもたちは楽しそうに取り組んでいました。「自分にもできる、役立っている」という経験をするのができて、自己有用感を感じることができていたと思います。

食品ロスに取り組んでいた子が給食で少し残っているおかずを見て、「…もう一口食べるか！」と言う姿も見られました。完食が少ないクラスだったのですが、2学期から計10回くらい、完食をすることができました。他にも、募金をしたり手紙を書いたりして返事が返ってくると嬉しい、下級生にもわかるように説明できてよかったなどの声もありました。

自分は人の役に立てるということを知ることができたことは、6年生に向け、いい準備になったなと思いました。

2年連続で5年生を担任しましたが、その年によって出てくるアイデアが変わるのも面白かったです。また、同じ募金でも、1年目は寄付先がFTCJとユニセフだけでしたが、2年目は子どもたちが色々な寄付先を見つけてきました。

### 難しかったこと、課題

郊外活動制限とコロナ禍という壁がありました。フォーラムへの参加、街頭募金など、校外での活動は取り組むのが難しく、実行に移すことができませんでした。一部の児童だけ外部へ行くことは難しいですし、コロナ禍によって外部へ行くこと自体ハードルが高かったです。近くの区民センターに自分たちで作ったパンフレットを置かせてもらいに行くグループも、授業中に行くのは難しく、休みの日に行くことになりました。外部との連携については、最初から地域コーディネーターさんに活動の打ち合わせに参加していただくと、活動の可能性がもっと広がるかもしれないなと思いました。

また、服や食料の寄付、お金の振込などの手数料がかかる場合、突発的な出費をどこから出すのが難しかったです。本当は、前もって手数料のことも含めて子どもが見据えて活動できるよう学んでいけるとよかったです。

あとは、子どもが外部に出す手紙に添える手紙やお礼状を書くのが正直とても大変でした（笑）テンプレなどがあると助かります。（→作らせていただきます！by FTCJスタッフ）

コロナ禍などによって子どものアクションに制限がかかるのは心苦しい部分がありました。それでも、今できることを考えて実行することには意味があったなと思いました。



### 今後の取組を検討している他の学校・先生方へのメッセージ

子どもと一緒にやっていく・創り上げていく感がありすごく楽しいです。子どもがどんなことやるのかな、どんな振り返りをするのかな、とワクワクします。

もちろん、授業計画を立て、授業の見通しは立っていましたが、子どもたちから予想を超えるアクションアイデアも出てきますし、アイデアを聞く時は新鮮で楽しいひと時でした。「こんなことやりたかったんだ」と。

子どもたちも達成感があってよかったです。私としても「ちゃんと総合ができた！」という感覚がありますし、「できた！」と感じているほくほくした顔を見ることができ、取り組んでよかったなと感じました。